名古屋城のご案内

開園時間

午前9時～午後4時30分
（ただし天守・本丸御殿への入場は午後４時まで）

休園日

12月29日～31日・1月1日

料　金

区　分		個　人	30人以上の団体	100人以上の団体
観　覧　料	大人	￥500	￥450	￥400
	名古屋市内高齢者	￥100	￥90	￥80
定期観覧券	大人	￥2,000		
	名古屋市内高齢者	￥600		
徳川園共通券	大人	￥640		
	名古屋市内高齢者	￥160		

- 定期観覧券の有効期限は1年間です。
- 定期観覧券・徳川園共通券の団体割引はありません。
- 名古屋市内高齢者の方は名古屋市敬老手帳をご提示ください。
- 障害者手帳などをご提示の方、中学生以下は無料です。

有料駐車場

正門前・二の丸東（東門前）

区　分	単位時間	料金
普通車	30分以内ごとに	￥180
大型車（正門前のみ）	1時間以内	￥600
	30分増すごとに	￥600

お問い合わせ

入園・催事等
名古屋城総合事務所
〒460-0031 名古屋市中区本丸1番1号
TEL（052）231-1700　FAX（052）201-3646
URL・http://www.nagoyajo.city.nagoya.jp

土産品・食事・駐車場等
名古屋城振興協会
（同上）
TEL（052）231-1655　FAX（052）231-1617
URL・http://www.nagoyajo.jp

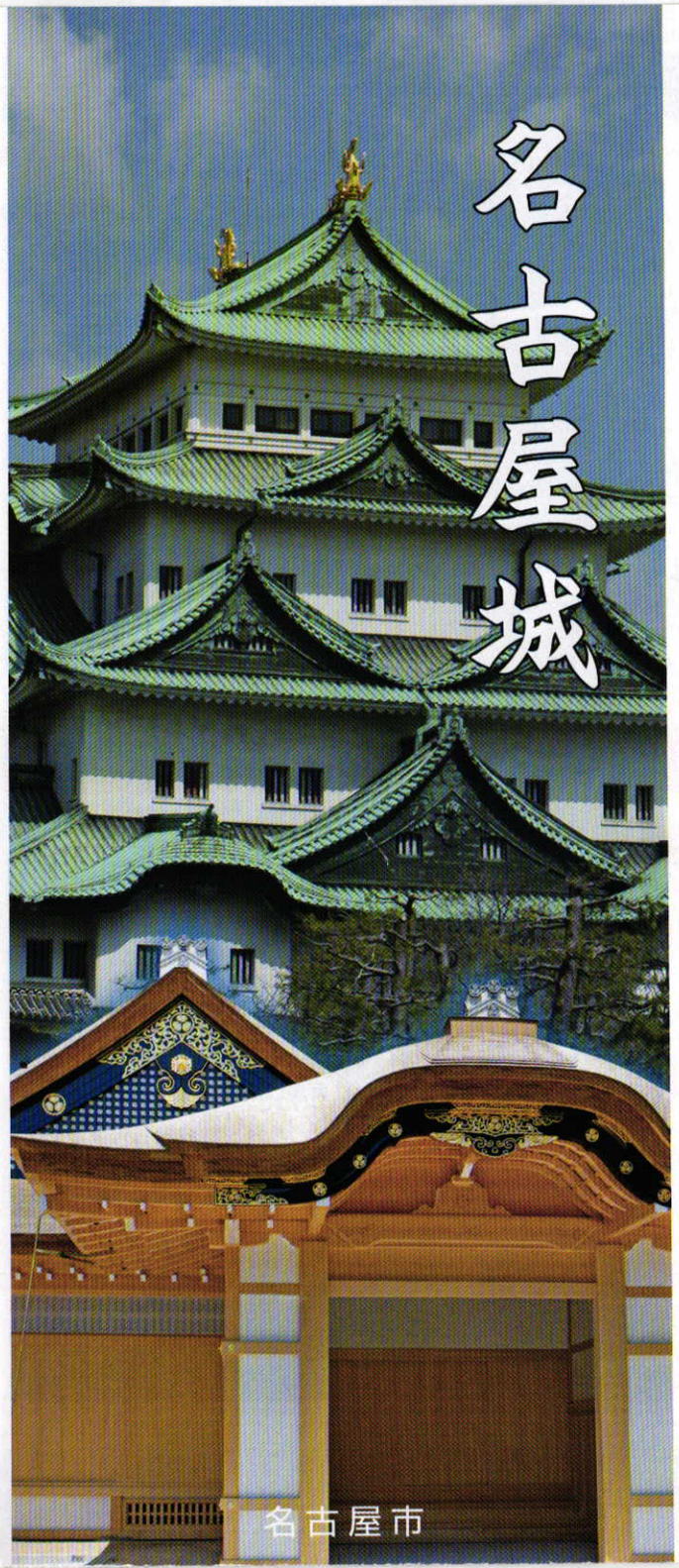
この紙は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。（1510　15）

公共交通機関

地下鉄名城線「市役所」下車、市バス「市役所」下車
なごや観光ルートバス"メーグル"「名古屋城」下車

車をご利用の場合

名古屋高速都心環状線「丸の内」出口から北へ5分



名古屋城内にある重要文化財

東南隅櫓（辰巳櫓）

とうなんすみやぐら　たつみ

本丸の南東隅にある屋根二重・内部三階の櫓。出窓には「石落し」が設けられています。かつては武具が納められていました。

西北隅櫓（戌亥櫓・清須櫓）

せいほくすみやぐら　いぬい

屋根三重・内部三階の櫓。他の建物の古材を転用して建築されており、外部北面、西面に千鳥破風が作られ、「石落し」を備えています。

西南隅櫓（未申櫓）

せいなんすみやぐら　ひつじさる

規模・構造は東南隅櫓と同じですが、「石落し」の破風の形が異なっています。平成22年度から解体修理を行ってきましたが、平成26年10月で完了しました。

表二之門

おもてにのもん

本丸南側にあり、鉄板張りとし用材は木割りが太く堅固に造られています。袖塀は土塀で鉄砲狭間を開いています。

旧二之丸 東二之門

きゅうにのまる　ひがしにのもん

高麗門形式で、二之丸東鉄門枡形にあったものです。
昭和47年に本丸東二之門の跡に復元しました。

名勝二之丸庭園

元和年間（1615～23）二之丸御殿の造営にともなって同御殿の北側に設けられた庭園です。享保年間（1716～36）以後、たびたび改修され、枯山水回遊式庭園に改められました。

名古屋城のカヤ

〈天然記念物〉

樹齢600年以上を経た天然記念物です。初代尾張藩主の徳川義直が大坂の陣に出る際、その実を食べたと伝えられています。

名古屋城本丸御殿

名古屋城本丸御殿は、初代尾張藩主の住居・政庁として使用するため、慶長20年(1615)、徳川家康により建てられました。昭和5年には天守と共に国宝に指定され、名建築として知られていましたが、昭和20年の空襲により焼失しました。
平成21年(2009)から復元工事を開始し、平成25年5月29日に第1期部分（玄関と表書院）の公開が始まりました。なお、すべての工事の完了は平成30年を予定しています。

総面積は3,100㎡、部屋数は30を超える平屋建の建物です。この復元工事は、「平成の市民普請」として、皆様のご支援をいただき、工事の様子を公開しながら進めています。

木材加工場の見学　毎週 月～土曜日（9:00～16:00）

※都合により見学できない日があります。

玄関の様子

屋根は、薄い木の板を厚く重ねて葺いた「こけら葺き」です。黒漆塗の破風には飾金具が施されています。

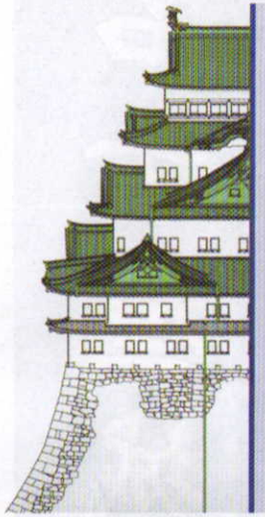
表書院の座敷飾

格式を重んじる表書院の上段之間です。華麗な花鳥画や床（とこ）、清楼棚、付書院、帳台構があるほか、天井は折上げ小組格天井として威厳を示しています。

復元スケジュール

本丸御殿平面図

天守の展示案内



7階	展望室、売店
6階	機械室
5階	名古屋の歴史、実物大の金鯱模型、石引き体験など
4階	石垣コーナー、武器武具、駕籠乗り体験など
3階	城内・城下の暮らし
2階	企画展示室
1階	名古屋城全体模型、本丸御殿障壁画、御殿模型など
地階	黄金水井戸構造模型 金鯱模型

人気コーナー

5F 実物大金鯱模型

青空を背景に、金鯱にまたがって記念撮影できます。

5F 石引き体験コーナー

当時の石垣の石を運び込む様子を再現しました。

7F 展望室 ／天守最上階から四方を眺めることができます。

〈お願い〉・1階はフラッシュ撮影禁止です。 ・2階は特別展開催時は写真撮影禁止です。
・ペットの持込みは禁止です（補助犬は可能です）。
・天守内は禁煙です。 ・飲食物の持込みはご遠慮ください。

金のシャチ

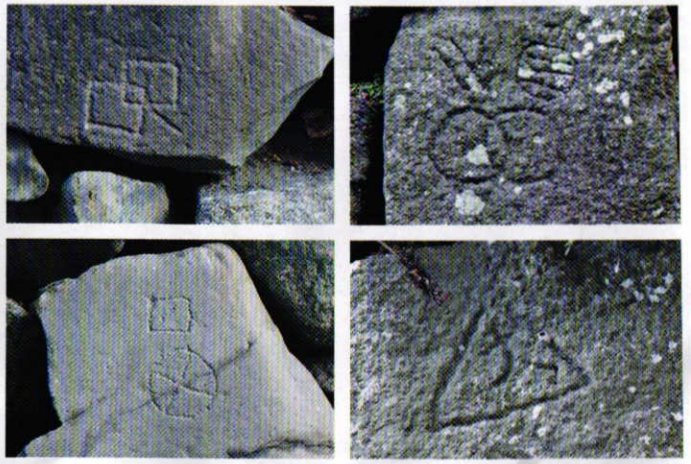
鯱は空想上の生き物で、水を呼ぶと言われることから火除けのまじないとされてきました。名古屋城の創建時の金鯱は、徳川家の権力・財力を誇るもので、貼られた金の量は慶長大判で1940枚といわれています。

現在のシャチ

区分	雌（南側）	雄（北側）
高さ	2.579m	2.621m
重量	1,215kg	1,272kg
金板の種類	18K	18K
金板の厚み	0.15mm	0.15mm
うろこの枚数	126枚	112枚
金量（18K）	43.39kg	44.69kg

石垣の刻印（刻紋）

城内の石垣には多種多様の記号を刻んだ石があります。
これは石垣の築造を命じられた諸大名が、他大名の石と区別するために刻んだ「目じるし」です。



▲さまざまな刻印

名古屋城の生い立ち

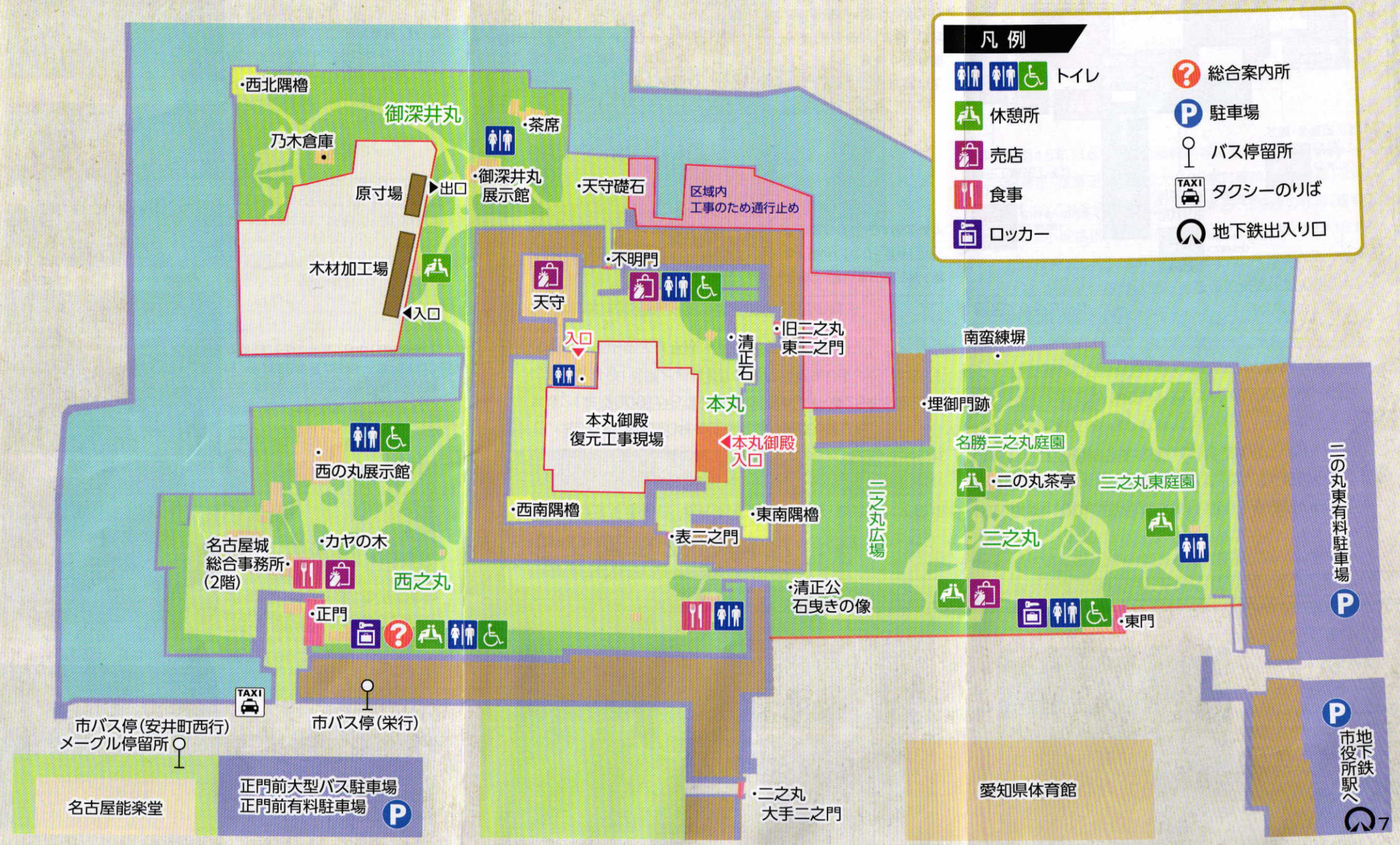
関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、慶長14年(1609)豊臣方への備えとして名古屋城の築城と、清須から新城下への街まるごとの引越しを決定。この新たに造られた碁盤割の街が現在の名古屋の原型となり、町や橋の名前も受け継がれています。

慶長15年(1610)名古屋城築城にあたって徳川家康は、加藤清正・福島正則ら西国大名20家に普請（土木工事）を命じました。これを天下普請といいます。天守や櫓の作事（建築工事）は小堀遠州・中井正清らに命じられ、慶長17年(1612)にほぼ完成しました。尾張初代藩主として家康九男の義直が入り、以降名古屋城は御三家筆頭尾張徳川家の居城として栄えました。

維新後も名古屋離宮としてその美しいたたずまいを誇った名古屋城は、昭和5年(1930)、城郭建築における初めての国宝に指定されましたが、昭和20年(1945)の名古屋空襲によって本丸のほとんどを焼失しました。しかし、名古屋のシンボルとして天守の再建を望む市民の声は日に日に高まり、昭和34年(1959)ついに天守が再建されました。

名古屋城本丸御殿は、文献や古写真、実測図、障壁画など多数の豊富な資料が残されており、史実に忠実な復元が可能であるため、平成21年(2009)に復元工事に着手しました。そして、平成25年(2013)5月29日、玄関と表書院の公開が始まりました。全体の完成は平成30年(2018)をめざしています。

名古屋城案内図


凡例
トイレ
休憩所
売店
食事
ロッカー
総合案内所
駐車場
バス停留所
タクシーのりば
地下鉄出入り口
西北隅櫓
御深井丸
茶席
乃木倉庫
原寸場
出口
御深井丸展示館
天守礎石
区域内
工事のため通行止め
木材加工場
入口
不明門
天守
入口
清正石
旧二之丸東二之門
南蛮練塀
本丸
埋御門跡
本丸御殿復元工事現場
本丸御殿入口
名勝二之丸庭園
西の丸展示館
二の丸茶亭
二之丸東庭園
二の丸東有料駐車場
西南隅櫓
東南隅櫓
二之丸広場
二之丸
表二之門
名古屋城総合事務所(2階)
カヤの木
西之丸
清正公石曳きの像
正門
東門
TAXI
市バス停(安井町西行)
メーグル停留所
市バス停(栄行)
名古屋能楽堂
正門前大型バス駐車場
正門前有料駐車場
二之丸大手二之門
愛知県体育館
地下鉄市役所駅へ
7